

2024 年 7 月 29 日

町田市長 石 阪 丈 一 様

町田市廃棄物減量等推進審議会
会 長 山 下 英 俊

2023 年度第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画の
進捗点検の結果について（報告）

2024 年度第 1 回（2024 年 5 月 20 日開催）、第 2 回（2024 年 7 月 29 日開催）町田市廃棄物減量等推進審議会において、2023 年度の第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画およびアクションプランについて進捗点検を行いました。その結果を、下記のとおり報告します。

記

2021 年 3 月（2020 年度）に策定した「第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画」では、2030 年度までの全体目標として「1 人 1 日当たりのごみ排出量を 2019 年度比で 7%削減すること」「総資源化率を 40%まで高めること」「温室効果ガス排出量を 2019 年度比で 30%削減すること」を掲げています。

2023 年度の「総ごみ量（資源・集団回収量を含む）」は 113,042 トンで、前年度と比較して 3,636 トン（3.1%）減少しており、基準年の 2019 年度と比較すると 7,552 トン（6.3%）の減少となっています。

2023 年度の市民 1 人 1 日あたりのごみ量は 717 グラムで、前年度と比較して 24 グラム（3.2%）減少しており、基準年と比較すると 51 グラム（6.6%）の減少となっています。

ごみの内訳をみると、「燃やせるごみ（家庭系）」は、61,546 トンで前年度比 1,908 トン（3.0%）の減少、「事業系ごみ」は 17,370 トンで前年度比 290 トン（1.6%）の減少、「燃やせないごみ・粗大ごみ・有害ごみ」は 10,326 トンで前年度比 195 トン（1.9%）の減少となっており、全体的に前年度と比較して減少しています。

2023 年度の総資源化率は、31.9%となっており、前年度と比較して 0.7 ポイント減少しており、基準年度と比較すると 0.7 ポイント増加しています。

2023 年度のごみ焼却による温室効果ガス排出量は、41,431t-CO₂ となっており、前年度と比較して 8.4%減少しており、基準年度と比較して、22.6%増加しています。

第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプランの進捗点検では、5つの基本方針に基づき、各取組施策の進捗状況の確認を実施しました。進捗点検においては、2023年度のごみ量の傾向だけでなく、施策を展開するまでの過程や取り組み内容等を考慮して評価を行いました。

評価の基準は「A」「B」「C」「D」の4段階とし、各委員の評価の平均値を、審議会としての評価としました。2023年度の進捗点検結果は別紙のとおりです。

2023年度は、2022年度と同様に総ごみ量（資源・集団回収量を含む）が減少しました。家庭系の燃やせるごみ・燃やせないごみが引き続き減少していることに加え、事業系ごみも減少に転じています。今後予測される社会的課題に対応し、今後も総ごみ量の減少傾向が続くよう、さらなる施策の工夫を求めます。

町田市廃棄物減量等推進審議会
2023年度第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン事業計画の評価

＜評価基準＞

- 【A】⇒ 大幅に取組が進んでいる（引き続き取り組む）
 【B】⇒ 取組は進んでいる（もう少し取組を強化し進める）
 【C】⇒ 改善（取組内容を検証し、効果的に進めるために、施策内容、実施回数、施策のスケジュール等の修正が必要）
 【D】⇒ 新たな取組を検討し進めていく
- ※各委員からの評価を点数化（A=4,B=3,C=2,D=1）し、平均点により評価
 ※平均点による評価は次のとおりとする。A>3.5≧B>2.5≧C>1.5≧D

【基本方針1】 市民、事業者との連携を強化し、協働による取組を進めます		評価理由	- 各実施手法については、計画どおり進められている。また、近年効果的と考えられるSNS等については、目標の倍以上の発信を行っている。 - 様々な団体や組織と意欲的につながりを持っている。 - 継続的な取り組みだけでなく、少しずつではあるが新しいことを始めている。 - 各種イベントや事業所との協働の取り組み、高等学校などへの出前講座等の実施など進展がみられる。
評価	B (3.46)	今後の課題	- 目標に対し、実績の回数はかなりの部分で上回っているが、実際に効果があるかどうかについては確認が必要ではないか。 - 大学との連携でも、ごみ減量の啓発に取り組むことを望む。 - 食品ロス対策に対して、さらに事業者との連携を望む。
【基本方針2】 家庭系ごみの減量を進めます		評価理由	- 民間企業との連携で、市民のリユース意識の醸成とごみの削減を加速する取り組みは、大変期待できる。 - 市が立てた目標をだいたいクリアできている。 2026年度から、市全域での容器包装プラスチックの収集・資源化の方針を定めた事は評価できる。
評価	B (2.92)	今後の課題	- プラスチックごみの発生抑制やリサイクルの推進に関しては、さらなる工夫と努力が必要である。 - ごみが減量されていることは評価できるが、なぜ減量したのかについての理由は別途調査が必要だと感じる。 - 容器包装プラスチックの分別協力率について、2023年度で33%という目標値自体が低すぎるように思う。
【基本方針3】 事業系ごみの減量を進めます		評価理由	- まちだ3R賞等が事業者にも周知され、表彰事業者数が増加している事は評価できる。 「市による指導や講習会の回数」や「表彰した事業者数」、「周知啓発活動の実施回数」といった市の活動は目標を達成したが、「公共施設から排出される事業系ごみの削減率」、「フードバンクに関する情報提供団体数」、「食べきり協力店認定数」といった目標は達成できていない。
評価	B (2.85)	今後の課題	- 引き続き、公共施設から排出されるごみの削減に努めることが市民や民間事業者の減量意欲を高めることにつながると考える。 - 事業系ごみを削減するにあたり、事業者が困っていることや直面している問題など本音の部分をヒアリングして、より良い施策にしてほしい。 - 小規模事業者からのヒアリング調査がさらに必要である。

【基本方針４】 環境に配慮した資源 化施設を整備し、適 正かつ安全な処理に 努めます		評 価 理 由	・各取組施策は、目標値を達成していない事項が多い。 ・火災により施設が稼働できない状況となってしまったことは残念である。
評価	C (2.46)	今 後 の 課 題	・火災原因がリチウムイオン電池であること、復旧のためには莫大なコストがかかること、ごみの分別の徹底がいかに重要であるかなどをしっかりと市民に伝えることが重要である。 ・施設の整備、運営という側面については、不測の事態等もあり難しい点もあるが、高い目標に向けて努力をする必要がある。 ・「資源化物の選別精度」が低いのは、プラスチックごみの分別の仕方が分かりづらく、市民が間違ったごみの出し方をしていることが選別作業の負担を増していることが理由だと考える。
【基本方針５】 社会的課題への対応 を強化します		評 価 理 由	・概ね計画通り検討作業等に取り組めていると評価できる。 ・5-1 災害廃棄物関連は◎でも良い内容と考える。
評価	B (3.08)	今 後 の 課 題	・町田市災害廃棄物処理計画で定められている災害時のごみ処理について、協定締結会社との共有ができていないのではないかな。 ・全国の課題対策・取り組み事例の調査研究を進めることを望む。 ・災害時の対応について、これからますます高齢化が進み、ごみの分別・回収など問題が増えていくと見られる。今以上の対応が求められる。